

平成 19 年度
後 期

国際広報メディア専攻

日本語論述

13 : 30 ~ 15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
- 3 解答用紙（25 字×40 行=1000 字）は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1 ~ 4 のうちから 1 題を選択し、1600 ~ 2000 字の日本語
(横書き) で解答しなさい。

【問題 1】

現代社会の象徴ともいえる「情報技術革命」については、相反する 2 つの見解がある。情報化は私たちの社会を大きく変えたという見方と、確立していた既存の社会的諸関係が単に「情報化」したにすぎない、という主張がある。情報化が社会に与えた影響について、あなたの考えを論じなさい。

【問題 2】

近年、電子ゲーム等による現実と非現実の混同が犯罪増加の一因である、と指摘されている。この指摘について考えるところを述べなさい。

【問題 3】

ある国または地域において、そこに移住してきた外国人に、国または地方自治体が、移住先の国・地域の公用語を学ぶ機会を行政サービスとして提供する事例がある。このことにはどのような意義と問題点があるか、考えるところを論じなさい。

【問題 4】

英語一元化か、現地語か。金融情報サービスの最大手であるブルームバーグ社のグラウアー会長は、ローカル化戦略の展開について次のように語っている。それを参考にして、経済や文化にとって現地語がもっている可能性について、自由に論じなさい。

いまアジア市場は事業全体の 16%だが、中国やインドが 8 ~ 10%の経済成長を続けるとすれば、今後 5 年間で全体の 20 ~ 25%を占めるとみている。市場への浸透には現地の言語で情報提供するローカル化が重要で、とくに日本、中国などの北東アジア市場ではその取り組みが欠かせない

(出典：「金融情報サービス大手ブルームバーグ」朝日新聞(朝刊)、2006 年 5 月 19 日)